

令和2年度（2020年度） 秦野市の財務書類【概要版】

（一般会計等）

<財務書類から分かる主な指標>

- ① 市民一人当たりの資産額 137万円(令和元年度:135万円)**
資産額を住民基本台帳人口で除して、市民一人当たりの資産額を算出したもの
 - ② 有形固定資産減価償却率 58.4%(令和元年度:57.2%)**
有形固定資産が取得してからどの程度経過しているか(老朽化の度合い)を示すもの
 - ③ 市民一人当たりの負債額 34万円(令和元年度:28万円)**
負債額を住民基本台帳人口で除して、市民一人当たりの負債額を算出したもの
 - ④ 市民一人当たりの行政コスト 40万円(令和元年度:28万円)**
市民一人当たりどれだけの行政サービスが提供されたかを示すもの
- ※ 令和3年1月1日現在の住民基本台帳人口(160,415人)を用いて算出

貸借対照表(BS)

令和3年3月31日現在 単位:億円

【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	2,141	固定負債	493
有形固定資産	2,114	地方債	317
無形固定資産	-	退職手当引当金	64
投資その他の資産	27	その他	112
流動資産	54	流動負債	53
現金預金	27	地方債(1年以内に償還予定)	34
未収金	4	賞与等引当金	6
財政調整基金	23	その他	13
徴収不能引当金	△ 0	負債の部 計	546
その他	-	【純資産の部】	
		純資産	1,649
資産の部 計	2,195	負債及び純資産の部 計	2,195

資産(土地、庁舎、道路など)は2,195億円、負債(地方債、未払金など)は546億円

貸借対照表は、会計年度末時点における資産と、その資産をどのような財源(負債、純資産)で賄ってきたかを示したものです。

令和2年度末では、2,195億円の「資産」を保有しています。「資産」の多くは、これまで取得してきた土地や建物などの有形固定資産となっています。

一方、546億円の「負債」を抱えています。「負債」の多くは、施設整備の際に世代間の負担を平準化するために発行した事業債や臨時財政対策債などの地方債となっています。

行政コスト計算書(PL)

令和2年4月1日～令和3年3月31日 単位:億円

経常費用	648
人件費	100
物件費等	131
その他の業務費用	4
移転費用	413
経常収益	12
臨時損失	2
臨時利益	3
純行政コスト	635

税金等で賄う純行政コストは635億円

行政コスト計算書は、福祉サービスやごみ収集などの資産形成にならない行政サービスにかかった費用や、その対価として得られた使用料・手数料などの収益が、1年間でどのくらいあったのかを示したものです。

令和2年度では、648億円の費用(経常費用)に対し、12億円の収益(経常収益)がありました。

臨時損益を加味した費用と収益の差額である純行政コストの635億円は、税金等で賄うこととなります。

純資産変動計算書(NW)

令和2年4月1日～令和3年3月31日 単位:億円

前年度末純資産残高	1,725
純行政コスト	△ 635
財源	626
税金等	308
国県等補助金	318
本年度差額	△ 9
資産評価差額	-
無償所管換等	0
その他	△ 67
本年度純資産変動額	△ 76
本年度末純資産残高	1,649

純資産は76億円の減

純資産変動計算書は、貸借対照表の純資産が1年間でどのように変動したかを示したものです。

令和2年度の純資産は、前年度から76億円減の1,649億円となっています。

本年度差額はマイナスとなっており、純行政コストを税金等で賄えきれず、これまで蓄積してきた純資産を取り崩した状況となっています。

資金収支計算書(CF)

令和2年4月1日～令和3年3月31日 単位:億円

業務活動収支	24
業務支出・臨時支出	603
業務収入・臨時収入	627
投資活動収支	△ 22
投資活動支出	48
投資活動収入	26
財務活動収支	4
財務活動支出	32
財務活動収入	36
本年度資金収支	6
前年度末資金残高	15
本年度末資金残高	21
本年度末歳計外現金残高	6
本年度末現金預金残高	27

令和2年度単年度の資金収支は6億円の黒字、年度末の現金預金残高は27億円

資金収支計算書は、1年間で、どのような活動に資金(現金預金)が使われたかを、活動の性質ごとに示したものです。

令和2年度単年度の資金収支は、6億円の黒字となっており、この黒字は、繰越金として翌年度以降に活用されます。

この結果、令和2年度末の現金預金残高は、27億円となっています。(歳計外現金を含む。)